

氏名	辻 玲子	部署	看護学科	職名	講師
研究分野	老年看護学				
学位	修士(看護学)				
学歴	1994年慶応義塾看護短期大学看護学科卒業、1999年大分医科大学医学部看護学科卒業、2001年日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程修了、2017年～宮城大学大学院看護学研究科博士後期課程在学中				
経歴	2012年 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科 講師				
所属学会(役職)	日本認知症ケア学会(代議員、関東1地域部会長、査読委員)、日本老年看護学会、日本看護管理学会、日本赤十字看護学会				

【2016年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
(2) 論文					
1	該当なし				
(3) 学会発表					
1	Cooperation between visiting nurses and other nursing staff in case of suspected elderly abuse and requirements of visiting nurses	単著	THE 20th East Asian Forum of Nursing Scholar(香港)	○Reiko Tsuji	2017.3
2	Necessary elements of interprofessional work in discharge support for elderly patients in dementia from acute-care hospitals	共著	THE 20th East Asian Forum of Nursing Scholar(香港)	○Etsuko Kikuchi, Reiko Tsuji, Mariko Otsuka, Yu Maruyama, Mitsuyo Aegami, Natsuko Suka, Atsuko Tanaka & Naoko Kunusawa	2017.3
3	認知症の人の家族介護者からみえた長期療養における専門職連携とその評価—家族介護者へのインタビュー調査を通して	共著	第17回日本認知症ケア学会大会(兵庫)	○須賀夏子, 大塚真理子, 畔上光代, 辻玲子, 丸山優, 國澤尚子, 田中敦子, 菊地悦子, 鶴岡弘樹, 木戸宜子	2016.6
4	開放型病床に入院した認知症高齢者の様相(第1報)—地域包括ケアにおける医療機関との連携強化に向けて	共著	第17回日本認知症ケア学会大会(兵庫)	○大塚真理子, 田中敦子, 須賀夏子, 畔上光代, 菊地悦子, 辻玲子, 國澤尚子, 木戸宜子, 鶴岡弘樹	2016.6
5	開放型病床に入院した認知症高齢者の様相(第2報)—内科的治療目的で自宅から入院した認知症群と非認知症群の比較	共著	第17回日本認知症ケア学会大会(兵庫)	○丸山優, 田中敦子, 須賀夏子, 畔上光代, 國澤尚子, 菊地悦子, 辻玲子, 木戸宜子, 鶴岡弘樹, 大塚真理子	2016.6
6	開放型病床に入院した認知症高齢者の様相(第3報)—入退院の経路における歩行と排泄に関する介護度の変化	共著	第17回日本認知症ケア学会大会(兵庫)	○田中敦子, 丸山優, 須賀夏子, 畔上光代, 辻玲子, 菊地悦子, 國澤尚子, 木戸宜子, 鶴岡弘樹, 大塚真理子	2016.6
7	認知症高齢者の退院支援を担う開放型病床の看護師の特徴—グループインタビューによる質的分析を通して	共著	日本認知症ケア学会2016年度東北地域大会(岩手)	○田中敦子, 丸山優, 須賀夏子, 畔上光代, 辻玲子, 菊地悦子, 國澤尚子, 木戸宜子, 鶴岡弘樹, 大塚真理子	2016.12
(4) その他					
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称		研究名、研究代表者・研究分担者の別		研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)		外来看護における高齢者虐待候発見と対応のためのプロトコル開発(研究代表者)		2015. 4～2018. 3
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)		認知症高齢者の長期療養を専門職連携で支える研修プログラムの開発(研究分担者)		2014. 4～2018. 3
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)		都市型診療所における看護師のコンピテンシーとその構造化(研究分担者)		2014. 4～2018. 3
3. 教育業績					
		期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	老年看護学 I	2016.10月	1年次生に、老年看護学実習 I の導入の講義を1コマ行い、実習のイメージをつけた。		

2	老年看護学実習 I	2016. 4～2016. 6	2年次生に、実習前には地域で暮らす高齢者の特徴と理解、高齢者の健康とアセスメント方法など実習で活用できる内容を行い、実習後には実習先の高齢者を想起し、高齢者と地域のつながり、高齢者活用について講義した。	
3	認知症看護	2016. 10月	4年次生に、卒業後の自己研鑽の仕方(認知症看護認定看護師のことや認知症患者の事例検討会への参加等)の講義を1コマ行った。	
<b>(2) 演習</b>				
1	老年看護学 II	2016. 4, 2016. 7	3年次生に、4月は要介護高齢者の看護過程の展開のグループワークがスムーズに進むように助言を行った。7月は「移動援助」演習において、4グループへ高齢者体験装具を使用しての指導を行った。口腔ケア演習では、スポンジブラシによる口腔清拭や口腔ケアモデルにて義歯の装着方法を指導した。	
2	老年看護学 III	2017. 1月	3年次生に、グループワーク(老年看護学実習 IIの体験の共有や高齢者の家族支援を考えるなど)への助言や発表へのコメントを行った。実習した病院だけでなく、まわりの地域との連携に視野が広がった。	
<b>(3) 実習</b>				
1	老年看護学実習 I	2016. 4～2016. 6	2年次生を対象に、13ヶ所の老人福祉センターにおける高齢者とのコミュニケーションを中心とした実習を4週間かけて(1人2日間)行った結果、高齢者へのイメージや捉え方が変化した。(科目責任者)	
2	老年看護学実習 II	2016. 11～2016. 12	3年次生22名を対象に、医療療養型病棟を使用して8週間の臨地実習を行った結果、看護展開しつつ、高齢者のベースや認知症症状にあわせたかわりや援助を習得できた。	
3	総合実習	2016. 7月	4年次生6名が特別養護老人ホーム、訪問看護ステーションそれぞれの実習先で3週間の臨地実習を行った結果、在宅の看護技術を習得できた。	
4	IPW実習	2016. 8～2016. 10	埼玉南地域担当で、6チームに対して2回の事前オリエンテーション、最後の報告会の運営等を行い、実習のサポートを行った。	
<b>(4) 論文指導</b>				
1	看護学科 学部生 卒業研究	2016. 4～2017. 1	4名	
<b>(5) その他</b>				
1	老年看護学概論(非常勤講師)	2017. 1～2017. 2	上尾看護専門学校の1年生約40名への講義・演習を14コマ行った。	
<b>4. 社会貢献活動</b>				
<b>(1) 講演会、研修会等の講師</b>				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	埼玉県介護支援専門員更新・専門研修講師	埼玉県社会福祉協議会	ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種連携	2016.7
2	関東1地域部会 事例検討会	日本認知症ケア学会	多職種よれば文殊の知恵;メモなし、壁なし、だんまりなし(7月小山、2月大宮)	2016.7と2017. 2
3	看護研究研修・グループ別指導	鎌ヶ谷総合病院	講義と年7回のグループ指導、研究発表会の講評	2016. 5～2017. 2
<b>(2) 国、自治体、財団法人等における委員等</b>				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称		任期
1	日本認知症ケア学会	関東1地域部会長		2014. 4～現在
2	日本認知症ケア学会	2016年度関東地域大会プログラム委員会実行委員、企画・演題座長		2016. 4～2016. 10
3	日本認知症ケア学会	第12回認知症ケア専門士認定試験 論文採点員、面接員		2016. 10～2016. 11
<b>(3) ジャーナリズムでの発言</b>				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
<b>5. 学内運営(委員会委員)</b>				
1	IPW実習科目責任者会(学生担当)			
2	看護学科4年生担任 及び 4年生国家試験対策担当			
3	看護学科 国試対策プロジェクト委員			
3	看護学科 卒業研究運営委員			
<b>6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)</b>				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	第17回日本認知症ケア学会大会 平成28年度石崎賞 開放型病床に入院した認知症高齢者の様相(第2報)ー内科的治療目的で自宅から入院した認知症群と非認知症群の比較(共著)	日本認知症ケア学会	2016.7	
<b>7. 特許の保有状況</b>				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
<b>8. 特記事項</b>				
該当なし				